

PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

カトリック信者の女性にとっての中絶

二十世紀後半、法的に認

められているから中絶し

ても構わないと勘違いを

している信者が多い。我々

信者は常に第一に、その問

題に神の意志がどう反映

しているかを見極めねば

ならない。神が胎児を尊重

なさるのは明白である。聖

書の中で次のように言わ

れる。

【あなたは私の内臓を造

り、母の胎内に私を組み立

ててくださいました。わたしは

あなたに感謝をささげる。

わたしは恐ろしい力に

よつて、驚くべきものに造

り上げられている。御業が

どんなに驚くべきものか

わたしの魂はよく知って

いる。詩編139:13-14】

また、【搾取されている

者を虐げる者の手から救

え。寄留の外国人、孤児、

寡婦を苦しめ虐げてはな

実の人の血を流してはならない。エレミア書22:3】
 中絶支持者よりも墮胎した女性よりも、神は胎児の味方をなさる。
 「そこかもしれないが、信者は寛容で優しいはずだろう」と疑問を感じるかもしれない。思い出してほしい。「偽善者たちよ！」と言った時、イエスは寛容で優しくなったか？なぜ、あれほどまでパリサイ人に怒ったか？パリサイ人達が、神の定めた戒律よりも人間の作った規則を重要視したのが原因だった。神はこう言う。

あなたたちのことを見事に預言したものだ。「この民は口先ではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。人間の戒めを教えとして教え、むなしくわたしをあがめてい

る」マタイによる福音書15:7-9】
 カトリック信者と名乗りながら、中絶の権利を主張する女性がいるなど、信じられない。過去に中絶し、それを悔い改めるといふなら話はわかる。だが、権利？とんでもない。たとえそれが政府で定めたものだとしても。
 我々信者は、ただ教えに従うだけでなく、心を次第に高めていかねばならない。法律を作るには大変な責任がある。40年前、政府が法律を草案する時、我々はもっと注意を払い、信者として声を上げるべきだったのに。私は何をしていたのか？私自身どうしていたのだろうか？ああ、主よ、あわれみたまえ！

若者は真実を

求めている

若者は真実を知りたがっています。そして彼らは崇高な理想を持って、崇高な理想を追い求める事ができます。若者がただ快樂のみを求めているというのは真実ではありません。私達は家族の価値観を高めなければなりません。そして、家族の一人一人がしっかりと結びあい、安定した家庭をうまく築けなければ、仕事で成功しても、又、お金持ちになっても無意味だと若者に力説しなければなりません。マザー・テレサが言ったように、今日の世界はあべこべなのです。というのは、家庭内に愛情がなく、両親には子どもの面倒を見る時間がなく、子どもは両親と過ごすための時間がなく、夫婦はお互いのための

時間がないのです。昨年は国際家族年でしたが、まだ家族のレベルが全く高められていないのは何と残念な事でしょうか。

IR-94

親と十代の性

Part 4

青年期の成熟

人間は肉体的、社会的、

知性的、感情的、そして倫理的に成長する。人は自分を完全に成長させればさせるほど、人生の幸福感と成功を遂げた満足感に浸れる。これらの成長は簡単には遂げられないし、また必ずしも自然に起こるものでもない。人間の成長は一生の仕事なのである。

感情的、知性的な成熟を理解する

感情的及び知性的な成熟にはさまざまな形がある。親としては青年期の典型的な発育パターンを理解するといいだろう。すべての形に共通の点が二つ挙げられる。

(A) 『成熟の進行』

* 発育は順番に行われるのであって、決してある段階を飛び越えられない。

* 肉体的、感情的衝撃のため、衝撃が解決されるまで発育が止まる事がある。

成熟の過程で自分の将来を考え、計画を立てて目標を持ち、人生のさまざまな側面で自分がコントロールしているという感情を持つ事。衝撃(親の死や離婚、アル中の親、友達との別れ、虐待など)はこのような過程を妨げる。自分の子どもに社会とどう関わって行くかを教えるのは親の責任である。十代の若者が性行為に影響されやすいのは彼らが知性的、倫理的、社会的そして感情的に十分成熟していないからである。

(B) 『十代はまだ大人ではない』

* 青年期の若者は成人した大人と同様には機能しないし、指示なしにはきちんとした決定を下せないはずである。彼らの行動は、時にはとても子どもっぽかったり、時には年齢以上に成熟したものであつたり、いろいろなレベルで絶えず変化している。

* 性に関する決定を下す際には監督者が必要であるが、若者は必ずしも性教育の授業内容をきちんと理解しているとは思えない。性教育を何年も教えてきたベテラン教師は、生徒は「言われた」事を違つたふう「聞く」ものだ、と口をそろえて言う。また、学校と親の価値観が食い違つていれば、彼らは理解できない。

* 医学に関する若者の知識には十代後半になつても限界がある。与えられた情報はほとんどの場合彼らの要求度や理解力で判断される。

* ある調査の結果、性に関する知識を得ても行動的にはほとんど影響を及ぼさない事が分かっている。ただ専門知識を教え込んでも、それが責任ある性行為につながるわけではないのである。彼らにとつてはまさか自分に望ましくない結果が起こるうとは考えられないのである。彼らは「スーパーマン症候群」や「否定の防衛機能」で、自分に限つてという気持ちになるのである。バースコントロールの調査に協力してくれた若者のうち15%が「自分は避妊具なしで平気だし、まさか妊娠などしない。」と答えている。

*青年期の若者は、性生活

を使用すべきだろうか。

におけるさまざまな選択肢を与えられた時、どのライフスタイルを選ぶべきか非常に迷う。教育の面から言えば、若者は自分で選択し、その結果（良かれ悪しかれ）を受け入れる事が望ましい。しかし性行為においては、若者の理解を越えるような状況に彼らを追い込む事が果たして賢明だろうか。あるいは、自制しなければ、長期的な危険を及ぼすと分かっている、彼らをそのような状況下におくのがフェアだろうか。

*もし使うべきだと答えれば、次のような問題がたくさん出てくる。どの避妊具を使うか。それをどこで手に入れるか。診療所での予約は必要か。ピルの場合、初めてのセックスの1〜2カ月前に服用したか。その支払いは、だれがするのか。妊娠やエイズの心配がないか。

とその直後には落ち込んでいたりする。これから先何が起こるか分からないまま生活するのは確かにストレスがたまる。これは十代の若者が順応的というよりはむしろ反発しやすいからというのが原因であろう。成熟とはセルフ・コントロール（つまり行動する前に考えること）

かにかかっている。自分の反応や感情を理解し、それをうまく対処しようとして初めて情緒的成熟に向かつて成長するのである。

- ・感じて
- ・考え
- ・そして行動する

自分の感情を認めることが必要である。感情は時には苦痛をもたらす、時には快樂をもたらす。快樂が常に良くて、苦痛が常に悪いだろうか。快樂から生ずるマイナス面は例えば乱暴な運転、食べ過ぎ、麻薬の服用、夜遊び、結婚前のセックスなどが挙げられる。その反対に苦痛から導くことができるプラス効果には、病気をしたことにより病院へ行く、運動による筋肉痛は筋肉が強まり、出産時の痛み、勉強、スポーツへの取り組みなどが挙げられる。

感情には善し悪しはないが、我々に考える機会を促す。人が考える事なく感情だけに左右されれば、自分自身を傷つけたり、周囲の人を巻き込む事も有り得る。感情の健康と共に肉体的・社会的健康をも損ない、失敗や拒絶、自尊心の喪失などを味わう。そしてそれは性欲という感情についても同じである。人は思春期を迎えれば性に興味を持つようになる。それは当たり前だ。しかし、多くの場合、その性欲を直ちに行動に移すのに問題がある。性に注ぐエネルギーをもっと生産的で性的でない事に注げればいいのだが。

愛情は一つの知識であり、他人に対する思いやりである。あらゆる感情は自分や他人のために、愛情をもって行動する事で情緒的成熟へと達成される。自分の感情を認め、行動前に考えられる能力を自制心と呼ぶのである。

『婚前交渉の』

『進歩的結末』

十代の若者の性活動が活発になった場合、避妊具

十代の若者の気分は揺らぐ。まるで、ローラーコースターのように気分が高まっているかと思う

『情緒的成熟と感情』

十代の若者の気分は揺らぐ。まるで、ローラーコースターのように気分が高まっているかと思う

感情には善し悪しはないが、我々に考える機会を促す。人が考える事なく感情だけに左右されれば、自分自身を傷つけたり、周囲の人を巻き込む事も有り得る。感情の健康と共に肉体的・社会的健康をも損ない、失敗や拒絶、自尊心の喪失などを味わう。そしてそれは性欲という感情についても同じである。人は思春期を迎えれば性に興味を持つようになる。それは当たり前だ。しかし、多くの場合、その性欲を直ちに行動に移すのに問題がある。性に注ぐエネルギーをもっと生産的で性的でない事に注げればいいのだが。

愛情は一つの知識であり、他人に対する思いやりである。あらゆる感情は自分や他人のために、愛情をもって行動する事で情緒的成熟へと達成される。自分の感情を認め、行動前に考えられる能力を自制心と呼ぶのである。

「これは赤ちゃんの命を救う話であるのと同時に、

主義の転向の話でもありません。」

母親の選択

一九八六年2月1日に、

私が中絶反対グループと出会った事は注目すべき事でした。私は、典型的な現代女性だと自分で思っていたし、美術協会での仕事を熱愛して働く、三人の子どもの母親でした。私はフェミニストどうしの友達

でした。どの子どもの時も

私は産後のふさぎ込みがひどく、一人づつ増える度に重くなり期間も長くなっていたので、それが怖くなつたのです。数か月前に精神科医は、私を自殺の可能性が高いと分類しました。もしこの赤ちゃんを産んだら、私は床に散らばる何百もの破片のように粉々になり、おそらく施設に入れられ、子ども達は母親を失う事になるでしょう。

いました。

更に私達は、寝室が二つしかないアパートに五人で住むという、とても経済的に苦しい状況にあったのです。これらの問題をすべて考え合わせてみると、とても私には克服できない、と思いました。それには妊娠によって悪化した関節炎もあったのです。ただひとつ考えられる道は、中絶でした。他にはどうしようもありませんでした。その決心をした瞬間から、このクリニクを訪れた日までの間に、私は自分の感情にほんの少しのかすかな変化があった事に気づいていました。私は少し神経質になり、更にフェミニストになり、女性の権利についてより考え、もう誰も私をこのように

傷つけてはならない、そしてすでにここへ来る前に、私達の結婚は終わりです。私は強い、はひどく傷つき、一人で残され困惑していると感じ、自分の権利だから周りの人に何も言わせたくないと思っていました。又それまで私は、何に賛成し何に反対するかによって自分を明示してきたので、今回初めての中絶をする事で、私のすべての道徳秩序が崩れてしまふ。何故なら中絶は自分の人生において絶対にしないと決めていた事であり、一度でもそれを犯したなら、今までの事がめっちゃめっちゃになり、自分を下げてしまふ。もし母親と子どもの愛がこの地球上で最も純粋な人間愛の形とすれば、その子の破壊とは地球上での究極の破壊の行為という事で、その時点から私にとってすべてが崩れてしまったも同然でした。

そして一九八六年2月

1日の朝、夫に送ってもらい、私は一人でそれをくぐり抜けるのです。私は強い女性だったし、何でも引き受けられるタイプで、自分でなんとかできるのです。車の中には三人の子ども達が乗っていました。その場所にはデモ参加者がいるけれど無視するようにと言われていました。ジェリーという素敵な女性が私に向かって歩み寄ってきた時、「私を放っておいて、好きにさせて、私は一人で苦しめばいいの。そりゃあなた達にはきつと二人の子どもがいて家もあつて、すべてうまくいっているのでしょうか。それで私にもう一人産めと言つ。私の事情も知らないくせに。」と思いました。歩道に立っているカウンセラーや中絶反対を唱える人々に対する私のその当時の認識は、通り過ぎる人達に罵倒を浴びせかけ、目の前にぞっとするような

写真をつき出すといったものでしたが、実際は全く違いました。それはとても平和的でおだやかで、ジェリーは胎児の発育や中絶の医学的な複雑さ等、私が聞きたくない事を説明しました。また、彼女は中絶の宗教的な面と道徳的な面について話しました。そしてジェリーはたくさん子どもを持つ母親にとって、妊娠した時点では欲しくなかった子どもでも、いつか家族の天使となる事もある、と言いました。その女性の言葉を私は心に留めました。

写真をつき出すといったものでしたが、実際は全く違いました。それはとても平和的でおだやかで、ジェリーは胎児の発育や中絶の医学的な複雑さ等、私が聞きたくない事を説明しました。また、彼女は中絶の宗教的な面と道徳的な面について話しました。そしてジェリーはたくさん子どもを持つ母親にとって、妊娠した時点では欲しくなかった子どもでも、いつか家族の天使となる事もある、と言いました。その女性の言葉を私は心に留めました。

写真をつき出すといったものでしたが、実際は全く違いました。それはとても平和的でおだやかで、ジェリーは胎児の発育や中絶の医学的な複雑さ等、私が聞きたくない事を説明しました。また、彼女は中絶の宗教的な面と道徳的な面について話しました。そしてジェリーはたくさん子どもを持つ母親にとって、妊娠した時点では欲しくなかった子どもでも、いつか家族の天使となる事もある、と言いました。その女性の言葉を私は心に留めました。

写真をつき出すといったものでしたが、実際は全く違いました。それはとても平和的でおだやかで、ジェリーは胎児の発育や中絶の医学的な複雑さ等、私が聞きたくない事を説明しました。また、彼女は中絶の宗教的な面と道徳的な面について話しました。そしてジェリーはたくさん子どもを持つ母親にとって、妊娠した時点では欲しくなかった子どもでも、いつか家族の天使となる事もある、と言いました。その女性の言葉を私は心に留めました。

写真をつき出すといったものでしたが、実際は全く違いました。それはとても平和的でおだやかで、ジェリーは胎児の発育や中絶の医学的な複雑さ等、私が聞きたくない事を説明しました。また、彼女は中絶の宗教的な面と道徳的な面について話しました。そしてジェリーはたくさん子どもを持つ母親にとって、妊娠した時点では欲しくなかった子どもでも、いつか家族の天使となる事もある、と言いました。その女性の言葉を私は心に留めました。

がらない世界にそれを伝える彼等、自分達は悪くないのに死に追いやられてしまつ幼子を、キリストの愛もつて守つてくれる人々、困っている人に屋根や着物や食べ物やあらゆる援助を与えて助ける彼等。信念を持った単純な行いを通して、社会の反対に合いながらも私を助けてくれたグループのお陰で、三人息子がいた私に今ではザビエラという娘もいます。

CLS-6/94

正しい前提から議論を始めよう

神様がどこにいらっしやるか、探求して論じる事を、私達はもうやめなければなりません。失われているのは神様ではなく、人間の方なのです。創世記の第3章にある問いは、「神様、どこにいらっしやるのですか」ではなく、「アダムよ、どこにいるのか」なのです。神が私達を捜し求め、見つけ出して下さるのであつて、その逆ではありません。

しよう。しかし、もし神様から議論を始めたなら、神が生命を授け、やがて人間を造りだそうとしている事が明白です。同様に、中絶は正当である。なぜなら、ある子ども達は、生まれても貧苦や飢え、虐待や慢性病に苦しむだけだから、という意見をよく聞きます。しかし、それは人間の側からみた議論ではないでしょうか。前提が間違っているのです。そこで、神から議論を始めるとして、神が一人一人の子どもに未来を計画されていると考えたらどうでしょう。神がもたらす子どもの人生に限界があるのでしょうか。子どもが豊かな人生を送る可能性がないといえるでしょうか。イエスは彼らを見つめて、「それは人間にできることではないが、神は何でも出来る」と言われた。(マタイによる福音書19:26)人間の弱さではなく、それこそ

が私達が前提とするべき事ではないでしょうか。もし、いつでも神様から見た考えを前提とするならば、私達の人生や世界の善なる力の偉大さは計り知れないものがあります。神は、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方」エフェソの信徒への手紙3:20)私達のするべき事は、神を充分信頼して、どんな状況にあつても神から見た考え方を忘れず、その知恵と愛と力に頼る事で、人間の力に頼る事ではありません。

Prby-Plnews-94

大切な直視、

非難、共感

私達は、主キリストにつき、主を生き方の模範としています。従つて、身ごもつて絶望に暮れている女性達のために祈り、神への取りなしを行い、同情の涙を流すだけでは不十分です。事を直視して、積極的に立ち向かう事が大切です。生命の尊さや受胎を生命の始まりとする考えだけを、再三再四繰り返して周囲をうんざりさせている仲間もいるし、胎児を殺すのは罪だと言いきるものもいます。確かに悪い事は毅然と非難する事が大切です。でも、そこからもう一歩歩み寄り、お腹にいる罪のない子の事を思い、最悪の事態にならないよう、女性とその身内の人達とともに対応策を考える事も必要です。

望んでいない妊娠という現実を前に、孤独や不安にさいなまれ、弱気になっている女性は、法律という罫にはまりやすいものです。法律はすべて理にかなっていて、単純明快なので、正しいと思いきみ、子宮内の貴重な果実を始末するような法律に従ってしまう事があります。プロ・ライフの運動をしていて、いつか、どこかで中絶した女性に出逢った場合、そのような女性をやみくもに非難するばかりではなく、共感し相手の苦しみや哀しみを理解し、共に苦しみ、哀しもうとする気持ちを持つ事も必要ではないでしょうか。

でも、現実に私達はこれらの直視、非難、共感をどこまで実行しているのでしょうか。聖書のコリント人への手紙第1：14〜33に「神は混乱の神ではなく平和の神だから」とある。おこり高ぶるのではなく、

真の謙虚さの中にこそ、平和は育まれる。平和はなにより第一に自己の心の中に生まれる。誕生を待たずして人生を終えていく数々の幼き生命を思うと、心が痛んでならない。キリストがお望みになった通りに生きるのが私達の理想である。相手を思いやる言葉や、黙想、手を差しのべるといった小さな行為が、誰かの人生に転機をもたらすかも知れない。その結果、身ごもって一人病院の門をくぐり、おろして返るといふ事がなくなる事もありうる。

いと簡単に生命を奪おうとする外的要素から人間を守るうとする時、聖ヴィンセント・ア・パウロの言葉に学ぶ事が非常に多い。「イエス・キリストの愛を伝える最善の策は、常に自分の中にキリストを感じている事だ。具体的には次の3つの方法がある。

(1) 行動を起こす前に、神はこんな時どういう気持ち、考えているかを想像し、神に近づけるよう努力する。

(2) 天国から常に私達を見守り、恩恵と英知を惜しみなく与えてくれる神の存在を思い起こす。

(3) 全ての被造物の中に神を見て、神を身近に感じる。

これによって、私達はより簡単にそして完璧に暮らしを営む事が出来るでしょう。「さらにヴィンセントは、弱くて罪深い人々にも哀れみの心を持つう。なぜなら他人を思いやる精神がないものは、神からの慈悲を受ける資格もないから。」とも書いています。

私達はこれらの言葉を謙虚に受けとめ、日常生活における目標として、努力していかなければならない。学生達に向かって話す時も、国会議員に呼びかけ

る場合も、普通に人と話している時、罪なき胎児のための活動中も、いつも共感の心を忘れてはならない。あらゆる人間の存在価値を尊重し、それがまた表面に現れていない人々のためにも祈り続けていく事が必要です。

人は皆弱く、罪を背負っている。全ての人間が神の存在に気づき、出会い、感じながら生きていくべきだ。路頭に迷っている人、無垢な人に対し罪を犯してしまった人、又その被害者のために、私達は彼らに神のみ心に近づけるように導く役目を果たせるのではないのでしょうか。私達の行いや言葉が相手の心を動かすかもしれないし、逆に私達の態度が誠実さ、寛容さ、愛情を欠く事で相手の心を一層傷つけてしまいかもしれない。私達は一日でも一秒でも早く、この新たな一步を踏み出さなければならぬ。この仕

事に神の恵みが降り注ぐよう祈りながら。そして、日に一度は心新たに、神の意志、愛、英知がいつでも私達を受け入れてくれているという事実への感謝の祈りを捧げてほしい。

ISSUES-92

忘れられた存在よ!

胎児の写真を使ったあるポスターに「中絶は女性と医師の問題と言っあなた、誰かを忘れています」と書かれている。言わんとしているのは、もちろん胎児の事だ。だが、赤ん坊は魔法でも使わない限り自力では出てこれない。また、もうひとり忘れてはならない重要人物、父なる神がいる。赤ん坊にも神との結びつきがあるのだ。

リンディ・ピアス

罪の意識、悲しみからの解放

中絶を指示したとして、その後、男性は女性と同様に、罪悪感や悲しみに苦しみます。彼は子供を一人失っているのですから。

この心の痛みをやわらげるために出来る特別な事がいくつかあります。

第一に彼は相手の女性と中絶について話す事が出来ず。親しい友人またはカウンセラーとしてです。中絶の事を語る時、男性はそれが現実起こった事であり、自分もその関係者である事を認識できるようにする必要があります。

第二に男性は中絶と結びついた悪い感情を認める必要があります。中絶した事を悩んでいない振りをして、この状況全体についての自分の本当の思いを認めるのです。そうする事によって、男性は命や責任に対する自分自身の

態度と自分自身をずっとよく分かるようになりま。これにより、自己を受け入れ、アイデンティティを見いだすのです。

第三に産まれなかった子供の死を甘んじて受け入れるために、男性は自分と、中絶に関わった他の人々を許す必要があります。それは、男性が自分の感情と状況の真実を認めるとき許せるようになりま。又、他の人々を許そうとする前に男性は中絶を指示した自分の感情を受け入れる必要があります。

ある男性は次のように語ってくれました。「クリスチャンになり、自分が罪のゆえに許され得るのだと知って初めて、最初の子供の中絶からくる罪の意識から解放されました。私達は自分達が行った事が問

違っていると分かっていた。しかし、中絶後の精神的影響を一度も考えなかつたのです。私達が神の創造した子供の命を奪つたと認識した時、泣いて神に許しを求めました。」

現在、その男性は他の人に中絶を止めるよう説得せずにはいられないと感じています。「私は彼らに中絶は誤りであり、おなかの中にいる子供はすでに一人の人間なのだと言っています。」と話してくれました。

この男性は自分の経験から学んで、決してそれを繰り返さない決心をしました。「一度自分が間違いを犯したと知ったら、間違いを潔く認め、二度と間違いが起こらないよう、人生における訂正を行うべきなのです。」